

事務事業名		歯科診療所運営事業			☒ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業										
政策体系	政策名	04: 安心が確保されたまちづくりの推進			事業期間		予算科目										
	施策名	17: 生涯にわたる健康づくりの推進					会計	款	項	目	事業						
	基本事業名	02: 地域医療体制の充実			☐ 単年度のみ		14	01	01	01	04						
所 属	根拠法令				☒ 単年度繰返 (開始 平成13 年度 ~)												
	部課名	生活福祉部国保年金課			☐ 期間限定複数年度 【計画期間】												
	係 名	福祉医療係	電話	0192-44-1030	年度 ~ 年度												
			内線	7185	全体計画欄の総投入量を記入												
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)											全体計画(期間限定複数年度のみ)						
むし歯、歯周疾患患者の診療、指導及び乳幼児、児童の定期健診等の保健事業を行い、この行為に伴う診療収入により歯科診療所を運営していくというのがこの事業の概要である。 事業費の内容は、主なものとして人件費(歯科医師、歯科衛生士)が挙げられ、そのほか非常勤職員(歯科衛生士)報酬、臨時職員(歯科衛生士、事務職員)賃金、施設維持管理費(燃料費、光熱水費等)、診療用材料費、技工委託料、医療機器購入費がある。 業務内容は、診療業務(月・水・金曜日9:00~17:00、火・木曜日10:00~18:30)、保健事業(乳幼児歯科健診、学童児童歯科健診等)が主なものである。											総 投 入 量 (千 円)	事 業 費 内 訳	国庫支出金				
													都道府県支出金				
													地方債				
													その他				
													一般財源				
											事業費計(A)				0		
											正規職員従事人数						
											延べ業務時間						
											人件費計(B)				0		
											トータルコスト(A)+(B)				0		

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		単位	
むし歯、歯周疾患患者に対し診療、指導等の医療を提供した。また、乳幼児、学童児童に対し歯科定期健診等の保健事業を実施した。		ア	診療日数
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		イ	
前年度と同様		ウ	
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
主に綾里地区の住民		名称	
		単位	
		カ	行政区域内人口
		キ	
		ク	
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
受診・指導を受けることによって、住民自らが健康づくりに参加する意識が向上する。		名称	
		単位	
		サ	利用患者数
		シ	むし歯がある児童の割合
		ス	
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)			
早期に適切な医療が受けられる。			

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度(実績)	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(目標)	22年度(目標)
投入量	事業費内訳	国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円				7,200	2,400
		その他	千円	7,793	9,661	9,760	8,433	10,000
		一般財源	千円	5,019	3,839	3,240	6,700	5,100
		事業費計(A)	千円	12,812	13,500	13,000	22,333	17,500
		正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2
		延べ業務時間	時間	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800
		人件費計(B)	千円	15,200	15,200	15,200	15,200	15,200
		トータルコスト(A)+(B)	千円	28,012	28,700	28,200	37,533	32,700
活動指標	ア	日	241	241	242	240	240	240
	イ							
	ウ							
対象指標	カ	人	3,120	3,072	3,044	2,996	2,950	2,900
	キ							
	ク							
成果指標	サ	人	4,540	4,803	4,911	5,000	5,000	5,000
	シ	%	81	74	70	65	60	55
	ス							

事務事業ID	0308	事務事業名	歯科診療所運営事業
--------	------	-------	-----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等 この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 合併前の昭和47年5月1日から三陸町国保綾里病院に歯科診療施設を設置し、昭和50年6月30日まで診療が行われていたが、それ以降歯科医師の退職等から休止となっていた。その後地域歯科医療行政の充実を図るという町の方針から昭和55年5月1日から三陸町国保歯科診療所を新設した。その後合併により大船渡市に承継され、引き続き地域住民の医療の充実に努めている。 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ 対象者数(診療所利用患者)に変化はないが、保健事業実施により中学生生徒(小学生当時に保健事業の実施を受ける)のむし歯罹患率を県内他市と比較しても明らかに低下しており、その成果が見られる。 この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 住民サービスの向上を図る、そして住民ニーズに応えるべくして歯科診療所において週2回の夜間診療を実施しており、小中高生、就労者等の患者から好評を得ている、そのほか、施設が狭く、またバリアフリー化されていないことから移動スペースが狭く、特に車いすで来院している患者は非常に不便を感じている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 地域の医療ニーズに応えるべくこの事務事業を推進し、成果(むし歯、歯周病予防)をあげることで、市民一人ひとりの健康づくりの一環として重要な役割を果たしている。
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 三陸地区はほかの医療機関(開業医等)の進出が困難なことから、市が実施主体とならなければ地域住民の歯科医療の確保と健康の保持増進を図ることが不可能である。
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 綾里地区において医療機関は歯科診療所しかないため対象・意図の拡大又は縮小の余地はない。
有効性 評価	成果の向上余地	☐ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない [理由] 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 延長診療の拡充、土曜診療を実施してほしいとの要望があるが、診療体制の問題、他の医療機関との関係があるため実施は難しい。
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 市内には16の開業医があるが三陸地域には越喜来に1箇所だけである。(診療圏は越喜来、吉浜)こういった中で綾里地区にある歯科診療所(へき地診療所に位置づけ)は地域住民の歯科医療の確保と健康保持増進に重要な役割を果たしており、廃止となった場合、年間約5000人の延べ患者は大船渡地区へ医療の給付をもとめることとなるが、患者の大半は中高年層であり、移動手段等から医療の提供を受けるのが困難となることが懸念される。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] 上記 に述べるとおり他の事業との統廃合は困難である。 ☒ 他に手段がない [理由]
効率性 評価	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 事業費の主なものは人件費、施設管理費(燃料費、光熱水費、医事会計システム賃貸借料等)、診療材料費、技巧委託料であり、削減した場合、診療に支障をきたすこととなり、この事務事業による成果は低下することから、事業費の削減の余地はない。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど) 現在の業務所要時間が最低限の所要時間である。所要時間を削減すると、診療時間に影響を及ぼすことになり、サービスの低下を招く。歯科医療は特殊な業務で一般事務職員とは異なり正職員の補助業務ではなく、一職員として責任を担わなければならない環境にあることから、低賃金の担当者(臨職等)の対応では、医療現場での責任問題と医療事故の危険性が高まることからその業務遂行は困難である。また、1年雇用ともなればさらに困難である。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 患者窓口負担の割合が定められている。

事務事業ID	0308	事務事業名	歯科診療所運営事業
--------	------	-------	-----------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 週2回の延長診療や歯科保健事業を実施した。 1日平均患者数は20人程度と昨年同様安定した受診がみられ、安全かつ安定した医療の提供を行った。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) ・今後も綾里地区における医療機関の進出が難しいと考えられるため、継続して事業実施していく。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 																							

4 事務事業の2次評価結果

(職名)	原則として施策の主管課長	(氏名)
2次評価者	国保年金課長	

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 旧大船渡市の地域とのバランスを欠く面もあるが、必要な事業である。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 必要不可欠な事業であり、次年度以降も継続する。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		●	×																				
	低下		×	×																				

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
--